特集

言葉は人の考え方を盛る器

韓国・朝鮮語講座　宋（ソン）　惠仙（へソン）　先生

講師紹介
韓国出身。高校時代「選択外国語」で日本語を学ぶ。現在は、御茶の水女子大学大学院　人間文化研究科博士課程在学中で、東京都大田区の成人学校の韓国語講師をつとめる。

川崎市国際交流協会が主催する「韓国・朝鮮語講座　入門コース」が６月４日から７月12日まで（午後７時～８時30分）全12回行われました。

定員25名で募集しましたが、応募者多数のため、30名で講座は開かれました。受講生は男女とも各年代にわたっており、始業20分前から教室をおとずれるという熱心な光景が見られました。講師の宋　惠仙（ソン　へソン）先生は、日本では韓国・朝鮮語を教られ、韓国では日本語を教えていらっしゃいます。次のインタビューからもうかがわれますように、明るく、細やかな点に気配りをなさって授業を進めておられました。

今回、韓国と日本はサッカーのワールドカップを共同開催しました。日韓で進められたということはとても嬉しいことだと思います。そのことで、先生のご感想はいかがですか。

私も、今まで二つの国でワールドカップを共同開催するということはなかったので、最初はどういうふうにやるのかしらと、ちょっと心配しました。結果的にとてもよかったと思います。私は韓国でもずっと日本語を勉強したり、日本語の教師をしたりして、以前から日本に対して興味をもっていました。でも、日本では韓国のことをご存じないかたが意外に多いんですね。例えば、食べ物でいうとブルコギとキムチしか思い浮かべられないという具合に。ある面での先入観のようなものもありますし、結構知っているようで、実際は誤解があったり、全然知らなかったりすることも多っかたですね。けれども、今回は、テレビが本当に韓国の隅々まで紹介してくださったりしたので、お互いがより深く理解しあえるようになったと思っています。

先生は日本人に韓国語を教えたり、韓国人に日本語を教えたり、両面からやっていらっしゃいますよね。これはとても素晴らしいことだと思うんです。韓国の大学では日本語日文学科を専攻されましたが、なにかきっかけでもおありでしたか。

ちょっと不思議なことなんですけれど、韓国では高校に入ると外国語を二つ選ばなければなりません。英語は必須ですが、もうひとつ外国語を選ぶのです。日本語を教えている高校は全国でも数が少なかったですが、たまたまうちの学校が日本語を選択していたんですね。それで、日本語を選び、高校１年のときから勉強しはじめました。大学受験のとき、日本語学科のある大学はその当時はまだそれほど多くありませんでした。それで、日本語学科ができて３年目ぐらいだった高麗大学に入りました。それがきっかけだったんです。

やはり日本の文化には興味をもっていらっしゃいましたか。

当時、日本のことはそれほどは知りませんでした。ただ、うちの家族は当時も日本に対してネガティブなイメージは全く持っていませんでした。最初は文化よりも言葉の学習から始めたと思います。大学に入ってから、文学作品を読ませられました。「伊豆の踊子」とか「くもの糸」とか。その時は、言葉を勉強するのが精一杯で、日本文化についてあまり知りませんでした。しかし、はっきりと説明はできませんが、なぜか何となく非常におもしろい。いつかはこの勉強をまじめにするだろうという予感がしていたんです。ですから、私の場合は言葉から興味を持ち始めたんです。

言葉から勉強を進められて、今、日本文化についてどう思われますか。

私は、そのあとは日本に関する全てに興味を持ち始めました。チャンスがあればいろんな所に行ってみたい。催し物があったら行って、広く浅くでも経験してみたいと思うようになりました。日本の文化は、「伝統」がつながっている。それがひとつの形、形式化・伝統化して、それをめんめんとつなげるところ、そういう日本人のこつこつさがうらやましい。韓国にもすぐれた文化、いいものがあったんですけれども、ときどき途絶えてしまうことがあったと思います。でも、今は若者達が自分の国の文化をつなげようと努力し始めたので、韓国でもそれを重んじる人が増えてきています。

言葉が単なる実用的手段として考えられていることが非常に多いと思いますが、文化を伝える手段としての言語については、教えられていていかがですか。

外国語を職業の手段として学習するのは、それはそれでとてもいいことだと思いますが、自分の生きかたとしてはそれができませんでした。言葉について非常に重みを感じていたんですね。私は、言葉というのは国だったら文化、個人だったらその人の考え方を盛る器だと思っています。もちろん、外国語としての限界はありますけれども、言葉を勉強する最終的な目標というものは、言葉を器にして、その中に入っている中身の精神とか文化とかそういう内容まで理解できる状態、それが最終的レベルだと思います。

最近の日本語というのは非常に乱れていると言われていますが、いかがでしょうか。

電車などに乗りますと、こんな使い方をしていいのかなという若者が結構います。そういうとき腹立たしいときもあります。でも、まだまだ日本人の大半の方はきれいな日本語使っていらっしゃると思います。

日本語がかなり変化していると思われることはありませんか。

言葉が非常に早口になってきていますね、ぺちゃぺちゃぺちゃぺちゃ、言葉ではなくて、何か音としてしか聞こえないようなしゃべり方になってきました。感情を込めてゆっくり相手に伝えるというのではなくて、相手が聞こうが聞くまいが、とにかく自分がいいたいことをしゃべろうとする。そういう人が結構多いのではないですか。自分の感情を込めると、自然とゆっくりしゃべるようになるはずですから。

韓国語学習について、日本語と語順が同じで学習しやすいと聞いていますが、日本語は学習の手がかりになりますか。

特別な場合を除いては、ほとんど日本語の語順に韓国語を置き換えていいです。その意味でも韓国語は日本人にとって学習しやすい言語だと思います。また、日本語の新聞にある音読みの漢字語が韓国語にもたくさん入っているので、耳で聞くと言葉の意味が想像できると思います。ほぼ、丸ごと同

じような読み方もします。また、ことわざも「サルも木から落ちる」とか、似ているのが多いです。

ハングルは、日本語の漢字、ひらがな、カタカナのどれに似ていますか。

どれも似ていません。英語のアルファベットに似ています。漢字とは関係なく、独創的に発明したものです。基本的な子音14個と母音10個が別々にあり、それをいちいち組み合わせてひとつの単語を作ります。

受講者の声

受講している方々にご意見、ご感想を伺いました。

加藤さん

＊講座は何で知りましたか？
生涯学習センターにあったお知らせと、神奈川新聞のお知らせです。
＊韓国語を選んだ理由は？
日本の伝承文化を学んでいるうちに韓国の文化にぶち当たり、そのうち韓国を訪れて、その国の方とお話をしたいというのが動機です。旅行に行って話せたら楽しいと思います。
＊勉強してみていかがですか？
語の並びが日本語と同じということで、今のところ解りやすいです。

間仁田さん

＊この講座を何で知りましたか？
宮前区のセンターのちらしです。
＊韓国語を始めた理由は？
１月に初めて友人と二人で韓国を訪れ、たまたま３人の紳士と知り合いになり、とても親切にしていただき、帰国後も毎日ファックス等で通信しています。写真を撮って名刺をいただいたので、旅行の時の写真を送ったりしているうちに韓国語を勉強しはじめました。勉強は、とても楽しいです。
＊どのように生かしたいですか？
次回行く時は韓国語で話してみたいです。韓国から音楽のテープを送ってくるので、日本語に訳したりして生かしたいと思っています。
＊　韓国に行ってどんな点がよかったですか？
はじめて外国人と交流ができ素晴らしい経験でした。よかったと思います。

神谷さん

＊講座は何で知りましたか？
交流協会を訪れた時、ちらしを見て知りました。
＊講座を受けた動機は？
韓国は距離的には近くても遠い存在の国でした。それでも私は韓国の歴史や文化に興味をもっていました。旅をした時に外の看板が読めたり、話せたりできるといいなと思って韓国語を勉強しています。
＊勉強してみて、いかがですか？
今までは、単に記号という感じだったけれど、文字として近づいてきた感じです。発音が難しいですが、法則性がわかってきたので面白いです。旅行したときにあいさつができるようになりたいと思っています。

（穴見千津子、井上浩子、福井すみ代）